

離島航路構造改革事業に係る 調査事業の実施について

「めおん2」について

予備船「めおん2」は、主船「めおん」の検査時の代替運航や、夏の繁忙期、瀬戸内国際芸術祭などのイベント時の増便のほか、他航路への傭船等に使用されている。

船の寿命は20年と言われている中、平成10年10月の進水から**25年が経過**し、**老朽化**が進んでいる。

電気系統の不調も発生し、安心・安全な運航に支障が出てきている。



第3まごめ丸（昭和54年～昭和62年）

【第3まごめ丸】
総トン数：176 t
旅客定員：250名
船質：鋼
進水：S45.4月



第3まごめ丸 船齢28年で代替



【めおん2】
総トン数：266 t
旅客定員：250名
船質：鋼
進水：H10.10月 （船齢25年）



めおん（昭和62年～平成10年/平成10年以降 予備船）

【旧めおん】
総トン数：198 t
旅客定員：250名
船質：鋼
進水：S62.6月



旧めおん 船齢33年で代替



【めおん】
総トン数：290 t
旅客定員：280名
船質：鋼
進水：R2.11月

「めおん2」の代替建造を行う場合の効果・課題等を踏まえた今後の方針（案）について

予想される効果

- ・「めおん」が故障した場合でも、離島航路を維持することができる。
- ・船舶老朽化に伴う維持コストが増大することを回避できる。
※次回の定期検査（5年に1度の大きな検査）は、**令和10年11月18日**の予定。
- ・夏の繁忙期や瀬戸内国際芸術祭の開催期間など、需要が高まる際の安全な運航体制を確保できる。
- ・他航路への傭船が引き続き可能になる。
（県内の他の離島航路の安定運航に寄与できる。）

代替建造を行わない場合の懸念点

- ・船齢とともに船体及び主要機器の老朽化が進行している。
- ・製造メーカーの廃業等により、当該船の新造時に搭載している**主要機器類の交換部品の供給が困難**となっている。

想定される課題

- ・代替建造にかかる費用負担が発生する。
※以下、令和9年度中に新船就航と仮定して、
- ・減価償却に係る補助金支払期間について、令和3年2月に竣工した主船「めおん」分と、「めおん2」の代替建造分が一部重なる。
- ・「めおん」の代替建造との間隔が7年程度と短く、次に代替建造する際も2隻の減価償却期間が重なる可能性が高い。

今後の方針（案）

次回の定期検査日程等を考慮すると、遅くとも**令和9年度末**（この時点で船齢29年）までに新船を就航させることが必要。（**令和7年度：調査事業**）

令和7年度 調査事業スケジュール(予定)

